

第2部 全学および各学部研究科ごとの自己評価点検書

(4) 人間文化学部・人間文化学研究科  
自己点検評価報告書

平成30年3月

公立大学法人  
滋賀県立大学 人間文化学部

## 目 次

第1章 理念・目的	1
第2章 教育研究組織	省略
第3章 教員・教員組織	2
第4章 教育内容・方法・成果	
(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	4
(2) 教育課程・教育内容	5
(3) 教育方法	7
(4) 成果	8
第5章 学生の受け入れ	11
第6章 学生支援	省略
「大学評価（認証評価）結果」対応状況	別添

（人間文化学部・人間文化学研究科に係る自己点検評価は、平成29年9月に実施しました）

---

## 第1章 理念・目的

---

### 点検・評価項目

- (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
- (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
- (3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

### 将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況

#### ①効果が上がっている事項

< 2 > 学部・研究科

##### 【人間文化学部】

今後も、ホームページをはじめとする様々な媒体によって、理念・目的の周知をはかることが必要である。

##### 【取り組み（対応）状況】

学部ホームページのほか、各学科のホームページが完備した。一部学科では2018年度入学生用のパンフレットを作り、理念・目的も周知している。

##### 【人間文化学研究科】

今後も、ホームページをはじめとする様々な媒体によって、理念・目的の周知をはかることが必要である。

##### 【取り組み（対応）状況】

研究科ホームページに3つの基本方針のほか各専攻の「人材養成目的」を明記している。

---

## 第3章 教員・教員組織

---

### 点検・評価項目

- (1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
- (2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
- (3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
- (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

### 将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況

#### ①効果が上がっている事項

< 2 > 学部・研究科

##### 【人間文化学部】

今後も公募制による採用や明確な昇格基準等の運用を継続するとともに、教育研究上の指導能力の評価を一層的確に行えるように検討していく。

##### 【取り組み（対応）状況】

公募制による採用を継続している。採用審査に当たっては学生指導経験などの教育指導能力も評価している。一部学科では採用面接時に模擬授業をさせている。

##### 【人間文化学研究科】

毎年の自己点検評価において、教員一人一人の教育・研究活動内容の確認を確実に実施し、各教員の教育と研究の質を確保する。

##### 【取り組み（対応）状況】

毎年、教員各人の自己点検評価を実施している。

#### ②改善すべき事項

< 2 > 学部・研究科

##### 【人間文化学部】

各学科とも大学設置基準を超える教員が配置されている。しかし、一部学科における、

専任教員が果たすべき職務が、非常勤教員によって代替されている状況が続くことは望ましいものではない。これらの点に関しては第2期中期計画期間中に是正する。

**【取り組み（対応）状況】**

この問題は教員人事（有資格者の新規採用）によって是正された。

---

## 第4章 教育内容・方法・成果

---

### (1) 教育目標・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

#### 点検・評価項目

- (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
- (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
- (3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
- (4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証を行っているか。

#### 将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況

##### ①効果が上がっている事項

< 2 > 学部・研究科

##### 【人間文化学部】

教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）、学位授与方針（ディプロマポリシー）については、「履修の手引」、ホームページに掲載され、周知の努力がなされている。卒業時アンケートの結果に窺われる学部教育への満足度の高さは、こういった教育方針と教育内容の一致度がかかなり高いことが理由の一つであると考えられる。今後も高い満足度を維持できるよう、点検を継続する。

##### 【取り組み（対応）状況】

二つの方針の周知の努力がなされている。卒業時アンケートも継続している。

##### 【人間文化学研究科】

研究科においては、そもそも専門性が高く少人数教育が徹底しているので、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針と教育内容との不一致はほとんど存在しない。今後もこの教育体制を継続する。

**【取り組み（対応）状況】**

従来通り、少人数の教育体制を継続している。

**②改善すべき事項**

< 2 > 学部・研究科

**【人間文化学部】**

教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）、学位授与方針（ディプロマポリシー）については、外部評価を交えた定期的な見直しの作業を繰り返すことで、大学を取り巻く社会の要請にも対応していくことが必要である。また、入学者の志望と学部教育内容の間に齟齬がおきないようにするため、これらを周知させる努力を継続する。

**【取り組み（対応）状況】**

外部評価の結果を全教員で共有し、毎年、方針の見直し（字句の訂正など）を行っている。しかし「入学者の志望と学部教育内容の齟齬」については、一部学科で初年時での休学者・退学者が出るなど、まだ改善の余地がある。

**（2）教育課程・教育内容**

**点検・評価項目**

（1）教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

（2）教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している

**将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況**

**①効果が上がっている事項**

< 2 > 学部・研究科

**【人間文化学部】**

教育課程編成方針および学位授与方針の明確化に伴い、各学科はカリキュラムマップや

カリキュラムツリー、履修モデルを作り、科目の体系化を図ってきた。また、学位授与方針にある「人間の文化に関する幅広い知識を身につけ、文化のさまざまな側面に対する理解を深める」ために、学部共通科目「人間文化論A/B/C」を設け、学生が学部内他学科の学問領域の知見を得られるようにしているほか、本学の履修制度により、他学部、他学科の専門科目を履修できることも効果を生んでおり、これらの取組みについては、今後も継続する。

**【取り組み（対応）状況】**

「人間文化論 A/B/C」について、より充実させるため、内容や学年配当などの見直しを、現在進めている。他学部・他学科の専門科目履修は継続している。

**【人間文化学研究科】**

3つの方針(入学者受入方針・教育課程編成方針・学位授与方針)の明確化、履修モデルの作成によって科目の体系化を図ってきた。今後も継続する。

**【取り組み（対応）状況】**

3つの方針、履修モデルともに各学科で整備され、ホームページ、「履修の手引き」に明記されている。

**②改善すべき事項**

**< 2 > 学部・研究科**

**【人間文化学部】**

学生の多様なニーズに少しでも応じるため、他大学との単位互換制度が機能する方策を講じる必要がある。たとえば、ウェブ配信授業などについて検討する必要がある。

大学に対する社会的要請が時代によって変化するため、学位授与方針や教育課程編成方針について定期的に点検し、必要に応じて科目の再編を行う必要がある。

**【取り組み（対応）状況】**

他大学との単位互換制度が機能する有効な方策はまだ講じられていない。ウェブ配信授業については、費用その他の問題があり、検討は中断している。各方針の定期的点検を行っており、一部学科では、教員人事にともない、非常勤講師が担当していた科目を専任が行うなどの、学科の将来計画に合わせた見直しを進めている。

**【人間文化学研究科】**

学部教育と同じく、今後、教育内容の再編を行う必要がある。

**【取り組み（対応）状況】**

各専攻・分野ごとに適宜、科目および教育内容の修正が行われている。地域文化学専攻では、博士後期課程が博士前期課程に合わせて、日本・歴史文化論部門、日本・現代地域論部門、国際文化論部門の3部門編成に改編された。

### **（3）教育方法**

#### **点検・評価項目**

- （1）教育方法および学習指導は適切か。
- （2）シラバスに基づいて授業が展開されているか。
- （3）成績評価と単位認定は適切に行われているか。
- （4）教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

#### **将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況**

##### **①効果が上がっている事項**

< 2 > 学部・研究科

##### **【人間文化学部】**

カリキュラムポリシーに沿った、科目の体系化に対する意識は高くなっている。授業の改善についても、FD活動に対する認識は高まっている。これらを基に、授業改善を進めていく。

**【取り組み（対応）状況】**

授業改善・FD活動を継続的に行っている。

**【人間文化学研究科】**

カリキュラムポリシーに沿った、科目の体系化に対する意識は高くなっている。その一方で、従来の、専門性の高い少人数教育の体制は維持していく。

**【取り組み（対応）状況】**

少人数教育の体制を維持している。

**②改善すべき事項**

<2> 学部・研究科

**【人間文化学部】**

学生が授業外学習を行うような授業方法を各教員が開発できるよう、授業改善の活動を進める。また、カリキュラムポリシーに基づき、科目の再編を検討する必要がある。

**【取り組み（対応）状況】**

学生が授業外学習を行うような授業方法の実施は、まだ一部の教員にとどまっている。

科目の再編は各学科・専攻で検討が続いている。

**（4）成果**

**点検・評価項目**

（1）教育目標に沿った成果が上がっているか。

（2）学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

## 将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況

### ①効果が上がっている事項

< 2 > 学部・研究科

#### 【人間文化学部】

FD活動の浸透に伴い、授業改善の意識は高まっている。授業改善の努力を引き続き行い、教育目的に対応した資格取得・就職等の成果を上げていく。

#### 【取り組み（対応）状況】

FD活動・授業改善の努力は継続している。

地域文化学科では、カリキュラムの見直しを進め、環境科学部環境政策学科とともに、地域調査士資格の取得が現1回生から可能となった。

#### 【人間文化学研究科】

研究科においては、少人数の学生に対して、きわめて専門性の高い教育がなされてきた。修士論文、博士論文に対する審査もきわめて厳正なものである。この取組を今後も継続する。

#### 【取り組み（対応）状況】

博士前期課程・後期課程の学生の研究指導スケジュール、学位論文審査基準を整え、明文化した。これは来年度「履修の手引き」にも掲載される予定である。

### ②改善すべき事項

< 2 > 学部・研究科

#### 【人間文化学部】

教育効果をより高めるためにも、学生の授業外学習内容や授業のあり方について検討する必要がある。

**【取り組み（対応）状況】**

授業外学習をすすめる授業のあり方の検討は、一部の教員にとどまっている。

**【人間文化学研究科】**

博士後期課程学生の在学期間が長期化する原因について検討し、対策を講じる必要がある。

**【取り組み（対応）状況】**

学生の在学期間が長期化する原因はさまざまであるが、研究指導スケジュールを再検討し、来年度「履修の手引き」に掲載することとした。

---

## 第5章 学生の受け入れ

---

### 点検・評価項目

- (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。
- (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
- (3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- (4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

### 将来に向けた発展方策の取り組み（対応）状況

#### ①効果が上がっている事項

<2> 学部・研究科

##### 【人間文化学部】

アドミッションポリシーに沿った出題がなされ、出題内容のチェック体制は有効に機能している。今後もこの体制を維持していく。

【取り組み（対応）状況】

出題・チェックの体制は維持されている。

##### 【人間文化学研究科】

アドミッションポリシーに沿った出題がなされ、出題内容のチェック体制は有効に機能している。今後もこの体制を維持していく。

【取り組み（対応）状況】

出題・チェックの体制は維持されている。

#### ②改善すべき事項

## < 2 > 学部・研究科

### 【人間文化学部】

一部学科において、入試倍率の実質的低下がみられる。今後ともその傾向が続くかどうかかわからないが、学科の内容のアピール、就職活動へのサポートの強化などを通じて、受験生に対する学科の魅力を発信していく必要がある。

### 【取り組み（対応）状況】

一部学科では推薦入試の見直しを進め、県外学生を対象とした推薦入試（推薦入試C）を開始する。それにともない、県外高校への学校訪問も始めた。また受験生（高校生）むけパンフレットを新たに作成し配布している。

### 【人間文化学研究科】

博士前期課程では、定員充足率は1.00を切ることが多い。

大学院教育を充実させ、魅力あるものにしていくための努力は当然であるが、今後は、リカレント教育を強める方策を考えるべき段階となっている。

### 【取り組み（対応）状況】

現時点では前期課程、後期課程ともに定員を充足していない。

リカレント教育については各専攻・部門で検討し対応しているが、実際の社会人入学者は少数に止まっている。

「大学評価（認証評価）結果」 対応状況

提言のあった項目

第4章 教育内容・方法・成果

(3) 教育方法

認証評価結果の対応状況

① 改善勧告

【対象】 人間文化学研究科

環境科学研究科、工学研究科、人間文化学研究科それぞれの博士後期課程において研究指導計画が策定されていないので、研究指導、学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に進めるように是正されたい。

【上記の取り組み状況】

博士前期・後期学生の研究指導スケジュール、学位論文審査基準を整え、明文化した。これは来年度「履修の手引き」にも掲載される予定である。

② 努力課題

【対象】 人間文化学部

環境科学部、工学部、人間文化学部では、1年間に履修登録できる単位数の上限が設定されていないので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。

【上記の取り組み状況】

1年間に履修登録できる単位数の上限を定めるために、各学科で協議が続けられており、全学的な調整が進められている。

③ その他（改善勧告、努力課題でなくても総評や概評で指摘のある事項）

【対象】

【上記の取り組み状況】

「大学評価（認証評価）結果」 対応状況

提言のあった項目

第4章 教育内容・方法・成果

(4) 成果

認証評価結果の対応状況

① 改善勧告

【対象】

【上記の取り組み状況】

② 努力課題

【対象】 人間文化学研究科

環境科学研究科、工学研究科、人間文化学研究科それぞれの博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。

【上記の取り組み状況】

在籍関係のない状態では、「課程博士」として学位を授与できないことが人間文化学研究科各専攻・部門で周知され、「論文博士」との関係などについて協議を始めている。

③

【対象】

【上記の取り組み状況】

「大学評価（認証評価）結果」 対応状況

提言のあった項目

第4章 教育内容・方法・成果

(4) 成果

認証評価結果の対応状況

① 改善勧告

【対象】

【上記の取り組み状況】

② 努力課題

【対象】 人間文化学研究科

工学研究科、人間文化学研究科博士前期課程及び生活文化学専攻博士後期課程、人間看護研究科において、学位論文審査基準が明文化されていないので、課程ごとに『履修の手引き（大学院）』などに明記するよう、改善が望まれる。

【上記の取り組み状況】

人間文化学研究科博士前期・博士後期課程では、各専攻・部門ごとに学位論文審査基準を明文化を進めており、『履修の手引き（大学院）』に明記することが決定されている。

③ その他（改善勧告、努力課題でなくても総評や概評で指摘のある事項）

【対象】

【上記の取り組み状況】